

# 第六十四回帝國議會 農業動產信用法案外一件委員會議錄(速記)第二回

(三六三)

付託議案  
農業動產信用法案(政府提出)  
漁業法中改正法律案(政府提出)

昭和八年三月十六日(木曜日)午前十時五十  
分開議

出席委員左ノ如シ

委員長 庄 晋太郎君

理事竹澤 太一君 理事中井川 浩君

理事中山 福藏君

鈴木 英雄君

青山 憲三君

砂田 重政君

渡邊 興七君

谷原 公君

佐藤庄太郎君

木本主一郎君

中村 嘉壽君

小池 仁郎君

出席國務大臣左ノ如シ

農林大臣 後藤 文夫君

出席政府委員左ノ如シ

司法省刑事局長

木村 尚達君

農林參與官 松村 謙三君  
農林省水產局長 戸田 保忠君  
農林省經濟更生部長 小平 権一君  
農林書記官 井野 碩哉君  
委員長ノ許可ヲ得テ出席シタル者左ノ如シ

議員 近藤壽市郎君  
本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ  
農業動產信用法案(政府提出)

○庄委員長 ソレデハ昨日ニ續キマシテ、  
會議ヲ開キマス、漁業法中改正法律案ニ付  
キマシテハ、昨日デ質問ハ打切ニナリマシ  
タ、本日ハ農業動產信用法案ニ付テ、御質  
疑ヲ始メテ戴キマス

○中村委員 私ハ此農業動產信用法案ト云  
フ法案ハ、極メテ時宜ヲ得タ法案デアルト  
信ジテ居ルノデアリマス、願クバ是ガ速ニ  
確定サレンコトヲ希望シテ居リマスガ、茲  
ニ政府ニ質問シテ見タイト思ヒマスコトハ、  
農業動產信用法案トシテアリマスルガ、之  
ヲ私達ハ何故農漁業ト云フヤウナ風ニ爲サ  
ラナカッタノデアルカ、ソレニハ何カ深イ理  
由ガアルカドウカ、之ヲ伺シテ見タイノデ  
アリマス、ト申シマスノハ、我國ハ御承知  
ノ通リ世界ニ冠タル水產國デアリマシテ、  
ドノ點カラ見マシテモ、水產國ト致シマシ  
テハ、世界各國ガ敬意ヲ表シテ居ル所デア  
リマス、水產額ニ於キマシテモ、ソレガ日

本ノ産業上ノ地位ニ於キマシテモ、社會上  
ノ地位ニ於キマシテモ、非常ニ重要ナル地  
位デアルニモ拘ラズ、由來私達ハ農林省ト  
云フ名前カラガ甚ダ當ヲ得テ居ナイト思フ、  
農業ト林業ト畜產ト云フモノハ、一緒ニ含  
メ得ラレル所ノ概念ガアルケレドモ、漁業  
トカ水產トカ云フモノハ、全然別個ノ觀念  
ヲ有ツテ居ルノデアリマス、世界各國ヲ見マ  
シテモ、英國ノ如キハ我日本ノ水產額ノ  
三分ノ一ニモ足ラナイニ拘ラズ、尙且ツ農  
漁業省ト云フモノガ出來テ居ル、加奈陀ニ  
致シマシテモ農漁業省デアル「ニユーフオ  
ンドランド」ニ致シマシテモ其通リデアル、  
ソレカラ諾威ニ致シマシテモ左様ナ名前ニ  
ナッテ居ル、佛蘭西トカ、伊太利邊リニ行キ  
マシテハ海運省ト云フノデ、海運ト水產ト  
ガ一緒ニナッテ居ルト云フニモ拘ラズ、我  
ガ日本ノヤウナ重要ナ水產國ニアツテ、農林  
省ノ下ニ水產技師デアリナガラ、農業技師  
トカ、農務技師ト云フヤウナコトデアツテ、  
洵ニ奇觀ヲ呈シテ居ルノデアリマス、是ハ  
私共常ニ不満足ヲ感ジテ居ルノデゴザイマ  
シ

○中村委員 能ク分リマシタ、左様ナ御趣  
ヤナラヌト信ジテ居ルノデアリマス、殊ニ  
今農業動產信用法案ト云フモノガ出來ルニ  
付キマシテハ、是ハ農漁業法トシテ戴キタ  
イ、此間モ是ト同様ナ——同様ト申シマス  
カ、災害保險ニ關シテ農業災害保險ト、漁  
業災害保險トガ合併サレテ、農漁業災害保  
險ト云フ法ガ通過サレタノデアリマス、サ  
ウ云フヤウナ例モアリマスルシ、願クバ是  
モ農漁業トシテ戴キタイト云フ希望ヲ有ツ  
テ居ルノデアリマス、之ニ付テ何カ理由ガ  
アルナラバ承ツテ置キタイト思ヒマス  
○小平政府委員 御尋ノ法案ノ名稱ヲ農業  
動產信用法ト致シマシタノデアリマスガ、  
是ハ別ニ深イ意味モアリマセヌ、農林省デ  
色々審議致シタ結果、林業モ入リマスン、  
漁業モ入リマスシ、全部ヲ表ハス名前ニシ  
マスト云フト、餘リニ長クナリマスノデ、  
略シテ農業動產信用法ト致シタノデアリマ  
シテ、別ニ漁業ト云フ字ヲ入レタ爲ニ困ル  
ト云フノデハアリマセヌ、唯字ヲ簡単ニス  
ル爲ニ、農業動產信用法ト致シタ次第デア  
リマス

旨デアレバソレデ洵ニ結構デアリマス、今  
政府委員ノ御説明ノ中ニ、他ノ林業トカ、  
畜産トカ云フモノト並ベルト、面倒デアル  
ト云フ御話デアリマスガ、私ノ先程ノ質問  
ニ於テ申上ゲマシタヤウニ、サウ云フモノ  
トハ全然概念ガ達フモノデアル、海ト陸ト  
カ云フ風ニ分レテ居ルノデアリマスカラ、  
農業ト言ヘバ他ノ林業モ含ム、或ハ畜産モ  
含ムト云フノガ吾々ノ常識デアル、ソレト  
ハ全然別個ノモノデアツテ、漁業ヲ茲ニ含マ  
セルコトガ適當デアルト信ジテ居ルノデア  
リマスカラ、何レ後ノ討論ノ場合ニ於テ、  
修正等モアラウト思ヒマスカラ、之ニ御同  
意下サルヤウナ準備ヲ致シテ置イテ戴キタ  
イ、私ノ質問ハ是デ終リマス

農業機械、漁業ノ方デ漁船以外ニ漁網トカ  
云フ物ガ、若シ必要デアレバ、其關係業者  
ニ能ク打合セマシテ、其種類ヲ指定致シタ  
イト考ヘテ居ルノデアリマス、ソレカラ第  
三條ノ「信用組合及勅令ヲ以テ定ムル法人」  
ト云フノハ、今ノ所漁業組合ヲ考ヘテ居ル  
ノデアリマス、實ハ漁業法ノ改正ト同時ニ  
レバ、漁業組合ガ信用組合ト同様ナ業務ガ  
出來ルノデアリマスカラ、ソコデ指定致シ  
タイト云フノデ、一應勅令ニ譲ッテ居ルノデ  
アリマス、漁業法ガ此法律改正以前ニ既ニ  
成立シテ居レバ、ソコニ漁業組合ヲ指定シ  
テ居ルノデアリマスガ、サウ云フコトガ出  
來マセヌノデ、勅令ニ譲ッテ居ルノデアリマ  
ス、其他ノ金融機關ニ付テハ、是ハ十分當  
業者ノ方ノ意見ヲ伺ヒマシテ、段々必要ナ  
ラバ擴ゲタイト思フノデアリマスガ、今ノ  
所ハ漁業組合ヲ考ヘテ居ルノデアリマス、  
第四條ノ「信用組合其ノ他勅令ヲ以テ定ム  
ル法人」ト云フノモ、漁業組合ヲ考ヘテ居  
ルノデアリマス、ソレカラ第四條ノ二項ノ  
「農事實行組合、養蠶實行組合其ノ他勅令  
ヲ以テ定ムル法人」ノ中ニモ、漁業組合ヲ  
指定致シタイト考ヘテ居ルノデアリマス、  
ソレカラ第十二條ノ「信用組合又ハ勅令ヲ

以テ定ムル法人」ノ中ニモ、漁業組合ヲ指  
定シタイ、ソレカラ第十三條ノ「第一項ノ  
登記ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ  
致シタイト考ヘテ居ルノデアリマス、ソレ  
カラ第十七條ノ「農業用動産ノ抵當權ノ實  
行ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定  
ム」是ハ漁船ヲ抵當ニ入レタ場合、牛馬ヲ  
抵當ニ入レタ場合ノ、其抵當權ノ實行ニ關  
シテ、競賣等ガ起キル場合ノ細カイ手續規  
定ヲ、勅令デ規定致シタイト云フコトニ考  
ヘテ居ルノデアリマス

作、養畜又ハ養蠶ノ業務及之ニ附隨スル業務」トアリ、其「業務」ハ「水産動植物ノ採捕若ハ養殖又ハ薪炭生産ノ業務」斯ウ云フ  
工合ニアリマスカラ、此業務ニ必要ナル動產、即チ器具、設備、斯ウ云フ物ハ矢張第二條ノ動產ノ範圍ニ入ルモノト私共ハ見テ居リマスガ、政府當局ノ意見ハ如何デアリマスカ

○小平政府委員 第四條ノ各號ニ書イテアリマス中、第一號ノ「農業用動產又ハ農業用生産物」是ハ第一條ノ第二項デ漁業用ノ動產、漁獲物ト云フコトニナル譯デアリマス、ソレデ其動產ノ種類ハ勅令デ規定サレルコトニナリマス、第二號ノ「農業用動產ノ購入」ト云フ中ニハ、勅令デ規定サレマス漁船、牛馬等ガ這入ルノデアリマス、第一號ノ「農業用動產」ノ範圍ニモ漁船ガ這入ルノデアリマス、第三號ノ「種苗又ハ肥料」第四號ノ「蠶種又ハ桑葉」モ決ッテ居リマス、第五號ノ「薪炭原木」モ決ッテ居リマス、第六號ノ「命令ヲ以テ定ムル」ト云フ申ニハ、命令デ水産養殖ノ種類ヲ規定スルコトニナリマス

此六ツニナルガ、第二條ニハ「農業用動産ノ範圍ハ、  
ノ範圍ハ、勅令ヲ以テ之ヲ定ム」トアリ、耕  
作ニ使フモノハ「トラクター」モ、或ハ鋤  
デモ、鎌デモ入レルト云フコトニナッテ居  
ル、ソコマデ行クカドウカハ別問題デアル  
ガ、此農業用動産ノ範圍ハ、勅令ヲ以テ定メ  
ルコトニナッテ居リ、第四條ニ於テハ、今ノ  
第二條ノ動産ノ範圍ニ付テハ、水產物採捕  
ナラバ漁船、漁具ハ無論這入り、養殖ニ行  
クナラバ養殖ノ設備、或ハ器具、薪炭生産  
ノ炭窯、サウ云フヤウナモノガ此動産ノ範  
圍ニ這入ッテ宜イノデハナイカト思フガ、若  
シサウ云フモノガ這入ラズ、其勅令デ定メ  
ラレタル範圍ガ狹イト、此法ノ運用上非常  
ニ窮屈ニナルガ、此點ヲ御伺致シマス、第  
四條ニ付テ申上ゲタコトハ別ナ問題デスカ  
ラ取消シマス

○鈴木委員 漁船ニ備付ノ機關ハドウナリマスカ、發動機ハ分離シテ考ヘルベキモノデアルカ、發動機ヲ使ッテ魚ヲ獲ツタ場合ニ、其魚ノ上ニソレガ及ブコトニナリマスカ、ソレカラモウ一つ船ノ大キサニ付テノ制限ガアリマスカ、何頓マデハ取ラヌトカ云フ……

○小平政府委員 魚ノ上ニハ先取特權ハナイコトニナシテ居リマス、漁船ヲ抵當ニ入レタ場合ニハ、漁船ニ抵當權ガ付クノデアリマス、又先取特權デ漁船ノ資金ヲ、漁業組合カラ借リタ場合ハ、漁船ニ先取特權ガアリマス、其漁船ノ發動機等ハ別々ニ入りマシン、一緒ニモ入ルノデアリマス、是ハ登記ノ手續ニ依テ、サウ云フ點ハ間違ガナイヤウニ、詳細ニ規定ヲ入レタイト思フノデアリマス、是ハ必要ニ應ジテ、發動機ダケデモ漁業組合ニ抵當ニ入レ得ルヤウニシ、又漁船ト一緒ニ抵當ニ入レ得ルヤウニ致シタイト考ヘテ居リマス、ソレカラ漁船ノ大キサハ、現在二十噸以上ハ抵當權設定ガ出

法律デ抵當權ノ設定ガ出來ルヤウニ致シタ  
イト、斯ウ考ヘテ居リマス、二十噸未滿ハド  
ンナ小サナモノデモ、必要ニ應ジテ抵當權  
ノ設定登記ガ出來ルヤウニ致シタイト考ヘ  
テ居リマス

○戸田政府委員 漁船保險ニ付キマシテ  
ハ、前ニ農漁業災害保險ノ委員會デ、色々  
御質問ガアリマシタ際ニ申上ガタヤウニ、  
當局ニ於テハ銳意研究シテ居リマスノデ、  
當局カラ提案スルト云フヤウナ時期ハ、一  
日モ速デアルコトヲ希望シツ、調査ヲ進メ  
テ居リマス

○佐藤委員 農業用ノ動産ヲ擔保ニスル其  
擔保ニ付テハ、其擔保ハ不動産ト違ッテ、使ツ  
テ無クナル物モアレバ、或ハ其他ノコトデ  
消滅シテシマフ場合モアリマスガ、サウナ  
ルトソレハ擔保ノ目的物ガ無クナルノデス  
ガ、サウ云フヤウナ場合ハドウ云フ風ニ御  
考ヘニナリマスカ

○小平政府委員 此制度ハ長イ資金ハ考ヘ  
テ居リマセヌガ、從來農業機械ヲ購入スル  
場合ニ於テモ資金ガナイ爲ニ、信用組合等  
デハ資產ガ少ナイ者ニ對シマシテハ保證人  
ヲ立テルトカ、色々ナ面倒ヲシナケレバナ  
ラヌコトニナリマスカラ、勢ヒ製造業者カラ  
借リテ買ツテ、其負債ガ殘ルヤウニナル、其  
弊害ヲ矯正シテ、製造業者ノ方ニハ現金ヲ  
信用組合デ代ツテ拂ッテヤリ、信用組合ノ方  
ガ擔保ヲ取ルト云フ形ニナリマス、信用組

合ノ方デハ元ト／＼對人信用デ行クベキモノデアリマスガ、斯ウ云フ制度ガ出來レバ、ソレヲ尙ホ進メテ行クコトガ出來ルノデアツテ、隨テ信用組合ノ方デハ、購入機械ニ付テ資金ヲ供給スルガ、一二年經過ノ後ニハ價值ガ減リマスカラ、ソコデ信用デ行カシタイト考ヘテ居ルノデアリマス、現在デモ普通ノ民間デハ、非常ニ不完全ナ方法デアリマスカラ、高イ金利ニナリマスガ、賣渡抵當ノ方法デ融通シテ居ルノデアリマシテ、信用組合ト致シマシテハ、擔保力ハ相當考ヘテ、其ノ範圍内デ資金ヲ供給シ、ソレ以上ハ矢張純然タル信用デ賄フコトニナルノデハナカラウカト思ヒマス、大體農業機械ハ現在ノ研究デハ、七年デ更新スルコトニナリマスカラ、二年、三年位ノ定期ノ貸付デ、サウエライ困難ハ生ジナイデハナイカト思ウテ居ルノデアリマス、尙ホ貸付ニ當リマシテハ、或ハ全額供給ハ困難カトモ思フノデアリマスガ、從來ハ信用組合カラ農業機械ヲ購入スル資金ガ出ナイ爲ニ、機械ノ製造業者カラ高イ金利デ借り買ヒ、ソレヲ拂ハナケレバ機械ヲ外サレルト云フヤウナ慘酷ナコトガ起リマスガ、サウ云フ制度ニ代ツテ信用組合ニ依テ現金ヲ拂シテマフト云フコトニナリマスカラ、或部分ハ

純然タル對人信用ト云フヤウナ部分ガアルト思ヒマスガ、之ニ依テ今迄ノ個人的ナ負債ガ多クナツテ、金利ガ高クテ負債ノ重壓ガ直グ來ルト云フヤウナコトガ、是デ救濟出米ルノデハナイカト考ヘテ居リマス

○佐藤委員 モウ一ツ伺ッテ見タイノハ、農業ニ依テ生產シタル其物ニ、先取特權ガ及ブト云フコトニ、御精神ガ出來テ居ルヤウデスガ、其生產シタルモノガ、現在アレバ先取特權ハ勿論宜シイガ、他ニ之ヲ賣却シテシマッテ無クナッタ場合ニハ、餘儀ナイモノ承知シテ宜シイ譯デアリマスカ、ソコヲ一ツ……

○小平政府委員 他ヘ賣却シタル場合ハ先取特權ガ無クナル、是ハ現在機械商ガ供給スレバ、民法デ先取特權ガアリマス、茲ニ規定シテアル一號カラ四號マデハ、現在トニナリマスカラ、二年、三年位ノ定期ノ貸付デ、サウエライ困難ハ生ジナイデハナリマス、サウシマスト現在ノ產業組合ノ中央金庫モアル譯デスガ、產業組合ノ中央金庫ト、漁業組合トノ連絡ヲ付ケテ、サウシテ其處ニ資金ヲ十分融通サレルト云フヤウナコトニナラナケレバ、實際漁業組合ハ漁業者ニ資金ヲ融通スル場合モ、困難デハナシカト思フノデアリマス、其邊ノ運用ノ上ニ於テ、十分ニ本法ノ目的ガ達セラレルヤウナ途ヲ付ケル必要ガアリハセヌカト思フノデアリマス、其邊ノ御見込ハドウデアリマスカ

○小平政府委員 漁業組合法ガ改正サレマシテ、漁業組合ノ機能ガ助長サレマスニ從ヌ、先取特權ヲ有ツテ居リマスカラ、掛賣ヲスルコトニナルノデアリマス、賣シテシマヘバソレダケノコトニナツテシマフ、信用組合デハ組合ノ方デ信用ヲ見テ貸ス、其代リ健實ナ擔保ヲ提供シナイデモ、此人ナラ大丈夫ダト云フ者ニ供給シマスカラ、相手ハ信託云フコトニナラナケレバ、特殊銀行カラ資金ヲ借リラレルコトニナツテ居ルノデアリマスカラ、特殊銀行連帶デ、特殊銀行カラ資金ヲ借リラレルコトニナツテ居リマス、ソレカラ又漁業組合ハ全員思シテ居リマス、ソレカラ又漁業組合ハ全員ニ能ク御願ヲシテ、今ノ許セル範圍内デ、此制度ガ出來マスレバ、ソレヲ見返リニシテ低利資金ヲ供給スルヤウニ致シタイト思フノデアリマス、尙ホ中央金庫トノ關係ニ付キマシテハ、現在ノ制度デハ直接ノ連絡ハゴザイマセヌ、遺憾ナガラ今ノ產業組合中央金庫カラ、直接漁業組合ニ貸付ケル途ハナインデアリマスガ、是ハ將來ノ問題ニナルカト思フノデアリマス

○松村政府委員 大體只今更生部長ガ申上

ゲマシタ通リデアリマスガ、何分今御話ノ  
通り、一飛ビニ此産業組合ノ中央金庫ノヤ  
ウナモノヲ作ル譯ニモ行キマセヌデ、其過  
程トシマシテハ色々考ヘテ居ルノデアリマ  
ス、此信用法案ノ中ニ現ハレタノモ其一部  
デアリマスガ、尙ホ色々研究致シマシテ、  
出来ルダケ漁業方面ノ金融ノ途ヲ開キタ  
イ、斯ウ云フ風ニ考ヘテ居リマス

ニ、御運ビ願ヒタイト云フコトヲ申上ダマシテ、私ノ質問ヲ終リマス  
○村上委員 鈴木君ノ質問ニ關聯致シマシテ、私モ一寸質問ヲシタイト思ヒマス、此農業動產信用法案要綱ノ第二項ニ、金融ノ途ガ書イテアルノデアリマシテ、之ニ依リマスト、「金融機關ハ信用組合及漁業組合等之ヲ以テ指定スル法人トスルコト」斯ウ

思ハレルノデアリマスガ、之ニ對シテ政廳ハ如何ナル御考ヲ有ツテ居ラレルデアリセウカ、聞キマスト此特殊銀行ニ對シテ、特殊銀行ヲ指定スルト云フヤウナコトモ明キマスケレドモ、現在農工銀行或ハ勸業銀行ニ於キマシテ、漁業者ニ對シテ貸付ヲ受ク事ニハ非常ニ嚴格デアリマス、折角既利資金融通ノ途ガ開カレテ居リマシテモ、

マシテ出資制度ニナリ、一方又責任限度ヲ擴張サレルノデアリマスカラ、其信用限度ガ高マッテ、從來ヨリハ供給ガ多クナルノデハナカラウカト思フノデアリマス、サウシテ尙ホ農林省カラ毎年出マス四五千萬圓ノ低利資金ハ、更生部デ扱ッテ居ルノデアリマスガ、低利資金割當ニ付テハ、十分是等ノ制度ヲ運用出來ルヤウニ致シタイト思フ

モ、實際ノ事實デアリマス、然ルニ漁業資  
金ト云フモノハ、非常ニ必要デ、又其額モ  
相當ニ多イノデアリマシテ、何トカ金融ノ  
途ヲ付ケナケレバナラヌ時デハナイカト、  
私共ハ考ヘテ居ルノデアリマス、ドウカ今  
後、今ノ政務次官ノ御話ノ通り、將來考ヘ  
ルト云フコトハ非常ニ心強イ話デアリマ  
スガ、現在ノ制度ニ於キマシテハ、中央金  
庫トノ連絡ガ付キ兼ネルト致シマシテモ、  
其處ニ將來結ビヲ付ケル、進ンデハ一ツノ  
中央金庫ヲ設立スルコトガ出來マスヤウ

程特別漁業權ノ如キ立派ナ漁業權ヲ有ッテ居リマス漁業組合ハ、是等ヨリ收入スル所ノ財產ガアリマスカラ、全國ニハ多少ハ資金ノアル漁業組合モアラウト思ヒマスガ、サウ云フヤウナ關係デアリマスカラ、折角茲ニ金融ノ途ヲ開キマシテモ、漁業組合ガ金ヲ貸スト云フコトハ、殆ドナイト言ッテモ宜カラウト思フ、サウシマスト農業方面ハ信用組合ニ依テ金融ノ途ガ開ケマスガ、商業組合ノ方ハ全ク金融ノ途ガ開ケナイ、謂ハゞ此法律ハ一つノ畫餅ニ歸シハセヌカト

ノ方法ニ依テ金融ノ途ヲ講ジナケレバ、斯  
ノ如キ法律ガ出來マシテモ、漁業者ノ恩典  
ニ浴スルコトハ、私ハナイデハナイカト田  
フノデアリマスガ、之ニ對シテ政府ハ如何  
ナル御考ヲ有ツテ居リマセウカ、假ニ特殊組  
行ヲシテ融通セシメルト致シマシテモ、岱  
付ヲ簡易ニシ、最モ便利ナ方法ニ依テ融資  
シナケレバ、其效果ハ無イト思ヒマスガ、  
政府ハ如何ナル考ヲ有ツテ居リマセウカ、  
ヲ御尋致シタイ

ヨコトニナレバ、漁業組合ヲ信用組合ニ加入  
スルコトニ勅令デ規定致シマシテ、取敢ズ  
信用組合ヲ通ジテ、漁業組合ニ金融ノ途ヲ  
付ケテ、中央金庫カラ信用組合ニ資金ヲ出  
シ、信用組合カラ漁業組合ニ資金ヲ出ズト  
云フ方法モ、現在ノ制度デハ取レナイコト  
モナイト思フノデアリマス、是ハ若シ此動  
産信用法デモ成立致シマスレバ、十分其點  
ハ考慮シタイト考ヘテ居ル次第デアリマス  
○村上委員 只今政府委員ノ御説明ニ依リ  
マスト、此漁業組合ノ機能ヲ擴張シテ、

ニ、御運ビ願ヒタイト云フコトヲ申上ダマシテ、私ノ質問ヲ終リマス  
○村上委員 鈴木君ノ質問ニ關聯致シマシテ、私モ一寸質問ヲシタイト思ヒマス、此農業動産信用法案要綱ノ第二項ニ、金融ノ途ガ書イテアルノデアリマシテ、之ニ依リマスト、「金融機關ハ信用組合及漁業組合等勅令ヲ以テ指定スル法人トスルコト」斯ウ云フコトガ書イテアルノデアリマス、所ガ御承知ノ通り信用組合ハ、既ニ金錢ノ貸付ヲシテ居リマシテ、相當資產ハ豊富デアリマス、ケレドモ漁業組合ナルモノハ、其本體ガ漁業權ヲ共有シ、協同施設ノ事業ヲ爲スト云フコトデアリマシテ、漁業組合ニ資金ノアルモノハ殆ドナイト言ツテモ宜イ、成程特別漁業權ノ如キ立派ナ漁業權ヲ有ツテ居リマス漁業組合ハ、是等ヨリ收入スル所ノ財産ガアリマスカラ、全國ニハ多少ハ資金ノアル漁業組合モアラウト思ヒマスガ、サウ云フヤウナ關係デアリマスカラ、折角茲ニ金融ノ途ヲ開キマシテモ、漁業組合ガ信用組合ニ依テ金融ノ途ガ開ケマスガ、漁業組合ノ方ハ全ク金融ノ途ガ開ケナイ、謂ハゞ比法津ハ一つノ畫餅ニ歸シハセヌカトシテ、私ノ質問ヲ終リマス

思ハレルノデアリマスガ、之ニ對シテ政  
ハ如何ナル御考ヲ有ツテ居ラレルデアリ  
セウカ、聞キマスト此特殊銀行ニ對シテ、  
キマスケレドモ、現在農工銀行或ハ勸業銀  
行ニ於キマシテ、漁業者ニ對シテ貸付ヲ開  
ス場合ニハ非常ニ嚴格デアリマス、折角既  
利資金融通ノ途ガ開カレテ居リマシテモ、  
之ヲ利用シテ居リマス漁業者ハ實ニ少ナ  
ノデアリマス、殊ニ漁業者ノ唯一ノ財産ニ  
アリマス漁業權ノ如キハ、昨日モ漁業法改  
正ノ際ニ申上ゲマシタ如ク、或ハ保證制廢  
ノナイ爲ニ、或ハ免許期間が短イ爲ニ、建  
權者ハ不安ノ念ニ驅ラレテ貸出ヲシナイ、  
云フヤウナ實情デアリマス、何カ是ハ特  
ノ方法ニ依テ金融ノ途ヲ講ジナケレバ、概  
ノ如キ法律ガ出來マシテモ、漁業者ノ恩典  
ニ浴スルコトハ、私ハナイデハナイカトト  
フノデアリマスガ、之ニ對シテ政府ハ如何  
ナル御考ヲ有ツテ居リマセウカ、假ニ特殊銀  
行ヲシテ融通セシメルト致シマシテモ、貸  
付ヲ簡易ニシ、最モ便利ナ方法ニ依テ融資  
シナケレバ、其效果ハ無イト思ヒマスガ、  
政府ハ如何ナル考ヲ有ツテ居リマセウカ、  
ヲ御尋致シタイ

マシテ出資制度ニナリ、一方又責任限度ヲ擴張サレルノデアリマスカラ、其信用限度ガ高マツテ、從來ヨリハ供給ガ多クナルノデハナカラウカト思フノデアリマス、サウシテ尙ホ農林省カラ毎年出マス四五千萬圓ノ低利資金ハ、更生部デ扱ツテ居ルノデアリマスガ、低利資金割當ニ付テハ、十分是等ノ制度ヲ運用出來ルヤウニ致シタイト思フノデアリマス、尙ホ産業組合法ガ昨年ノ六十三議會ニ改正致サレマシテ、信用組合ノ中ニ若シ希望ガアレバ、色々ナ農事實行組合、養蠶實行組合、サウ云フ部落單位ノ實行機關ガ加入出來ルヤウニ、勅令デ指定出來ルコトニナツテ居ルノデアリマス、是ハ若シサウ云フ便宜ノ途ヲ開ク方ガ宜イト云フコトニナレバ、漁業組合ヲ信用組合ニ加入スルコトニ勅令デ規定致シマシテ、取敢ズ信用組合ヲ通ジテ、漁業組合ニ金融ノ途ヲ付ケテ、中央金庫カラ信用組合ニ資金ヲ出し、信用組合カラ漁業組合ニ資金ヲ出ズト云フ方法モ、現在ノ制度デハ取レナイコトモナイト思フノデアリマス、是ハ若シ此動產信用法デモ成立致シマスレバ、十分其點ハ考慮シタイト考ヘテ居ル次第デアリマス○村上委員　只今政府委員ノ御説明ニ依リ

産業組合ト同様ナコトヲナサシメルト云フコトニナリマスカラ、隨テ資金ヲ得ルコトガ出來ルト云フヤウナコトニ拜聽シタノデアリマスガ、御承知ノ通り、漁業者ナルモノハ、成程一部ノ網ヲ持テ居リマスル漁業者ハ別問題ト致シマシテ、其他ノ漁業者ハ其日ノ生活ニ苦シニ居ルヤウナ狀況デアリマシテ、出資ヲスベキ餘地ノナイト云フコトハ、御承知ノ通リデアラウト思ヒマス、故ニ私共ハ此産業組合ト同様ナコトニナリマシテモ、漁業者ガ出資ヲ致シマシテ、而シテ信用組合ヲ作ルト云フコトハ、餘程ムヅカシイコトデハナイカト思フノデアリマス、此點ニ付テハ如何デスカ

○戸田政府委員 只今ノ御話ノアリマシタヤウナ漁業組合ハ、農事實行組合等ト大體ニ於テ同格ニ考ヘテ宜イカト思ヒマスガ、ソレニ付テハ今更生部長カラ答辯ノアリマシタヤウニ、勅令ヲ以て指定スレバ、或ハ部落のノ漁業組合ガ、現ニ産業組合ガアル場合ニ、産業組合デアル信用組合ニ加入ヲ認ヌルト云フコトモ出來ル制度ニナッテ居ト云フ意味ノ答辯ガ、先程更生部長カラアツタノデアリマス、サウ云フ點ハ、サウ云フ途が開ケレバ餘程緩和シ得ルト思ヒマス、○谷原委員 此農業用動產ノ抵當權ハ、從來法制上非常ニ難關トサレテ居リマシタ所ヲ突破シテ、茲ニ成案トナツタ次第ト思ヒマスルガ、就キマシテハ從來難關トサレテ居リマシタコト程左様ニ、私共ハ一ツノ疑問ヲ有ツノデアリマスルガ、即チ從來動產ニ付テ、質ハ認メテ居ルガ、抵當權ヲ認メスト云フノハ、動產ノヤウナ類似性ノ多イ、轉々シヤスイモノデアリ、而シテ追及メヌト云フノハ、動產ノヤウナ工合ニ明ニナサニ付テ、質ハ認メテ居ルガ、抵當權ヲ認メヌト云フノハ、動產ノヤウナ見マシテ、其實行ノ上ニ於キマシテ大變ナ障礙ガ生ズル、質ノヤウナ占有ト云フモノノ伴フモノハ宜シイガ、占有ヲ有セズシテ、ソレニ擔保權ヲ認メルト云フヤウナ場合ニ於キマシテハ、第一登記面ニ於テ公示致シマスルガ、其公示ニ於キマシテ特定性ヲ何人ニモ認メシムル程度ニ公示ガ出來ナイ、又是ガ他へ移リマシタ時ニ、其抵當權ノ目的物タルモノヲ追及シテ行クコトニ付キマシテ、非常ニ困難ガアルト云フノデ、結局不動產ノヤウナ特定性ノ多イモノハ、抵當權ハ認メラレタケレドモ、動產ニ付テハ今マデ立法上至難ナリマス、場合ニ依テハ其指定ヲシテモ宜イ

ト云フ意味ノ答辯ガ、先程更生部長カラアツタノデアリマス、サウ云フ點ハ、サウ云フ途が開ケレバ餘程緩和シ得ルト思ヒマス、○谷原委員 此農業用動產ノ抵當權ハ、從來難關トサレテ居リマシタ所ヲ突破シテ、茲ニ動產抵當權ト云フモノガ認メラレタノデアリマスルガ、保存登記ノ如キニ於キマシテ、其特定性ヲドノヤウニシテ爲サルノデアリマスルカ、即チ公示方法タル登記ニ於テ、例ヘバ馬一匹或ハ牛一匹、豚何匹、或ハ農業用ノ鋤鍬ト云フヤウナモノヲ、誰ガ見テモ此物權ガ何某債權者ノ擔保ノ目的トナツテ居ルト云フヤウナ工合ニ明ニナサルノデアルカ、又其抵當權ノ實行ノ場合ニ、執達吏ナラ執達吏ガ參リマシテ、是ガ何某ノ債權者ノ擔保ノ目的物デアルト云フヤウニ、直グ認識出來ルト云フコトハ、ドノヤウナ方法ヲ以テ公示ナサルノデアリマセウカ、私共ハ頗ル其點ヲ疑問ニ思フノデアリマスガ、政府ニ於キマシテ、其公示方法、即チ特定方法ニ對スル具體的ノ御考ヲ御漏シ願ヒタイノデアリマス

○小平政府委員 此法律デ抵當權ノ設定出来ル動產ハ、大キナモノニ限テ居ルノデアリマス、家畜ハ牛、馬ニ限テ居リマス、ソレ牛、馬ハ現在家畜保險ニ於テ、家畜保險契約ヲ締結スル場合ニ於テハ、ヤハリ一度ノ登録ノヤウナ形ニナルノデアリマス、其場合ニハ大體約十位ノ特徵ヲ登録スルコトニナルノデアリマス、其家畜保險ノ登録ノ經驗ノ結果カラ見マスルト、十位ノ特徵ヲ登録致シマスレバ、相手ガ村ノ信用組合ニ限テ居ルノデアリマスカラ——今マデノ考ヘ方ハ、總テ廣ク一般ノ動產ニ抵當ヲ設定スルコトハ困難デアルト云フ議論デアリマシタガ、今回ハ相手ヲ信用組合ニ限テ、而モ組合員ニ限テ居リマスカラ、ソレデ家畜保險組合ト同ジヤウニ、家畜保險證書ニ記載シテアル十乃至十二位ノ家畜ノ特徴ヲ記載スレバ、ソレヲ登記シテ置ケバ、十分ソレデ見分ハ付クト云フコトニ研究ノ結果ナツタノデアリマス、ソレカラ又農業ノ機械ノ方モ、鋤鍬ナドデハナクテ、製作番號ノ入ツテ居ル特徴ノ明ナル機械ヲ設定スルノデアリマス、隨テ抵當權ヲ設定シタ機械ニ付テモ、登記簿ヲ見マスト、機械ノ製作番號、特徴等ヲ十位書イテ、ソレデ登記シテ公示スルト云フコトニ致セバ、相手ハ信用組合ト漁業組合ダケデアリマスカラ、サウ云フ不安ハ感ジナイト云フノデ、司法當局トモ十分研究致シマシテ、斯ウ云フ制度ヲ拵ヘタ譯デアリマス、尙ホ是ハ此法律ノ終リノ方ニアリマス通り、此登記ハ第三者ニ對抗スル登記ニナツテ居リマシテ、尙ホ抵當權ヲ設定シタ債務者ノ方デハ、ソレヲ讓渡スル場合ニハ、讓渡人ニ抵當權ノ

設定ヲ告知スル義務ヲ法律デ規定シテ居ルノデアリマス、隨テ相手ガ信用組合、漁業組合等ニ限ッテ居ルト云フ點ト、組合員ノミニ限ッテ居ル點ト、ソレカラ農業機械ナラバ、特ニ大キナ製作番号ノアル明瞭ナルモノヲ抵當權ニ設定スルト云フコトヽ、ソレカラ漁船ノ方ハ、是ハヤハリ二十噸未満デアッテモ特徴其他總テ登記出來ルノデアリマスカラ、先づ此程度ナラバ相當運用ガ付イテ、弊害モナイデハナイカト云フコトニモ考ヘタ譯デアリマス、從來動産抵當ハ困難デアルト云フノハ、總テノ動産ニ付テ、又一般ノ債権者ニ對シテ抵當權ヲ設定スルト云フノデアルカラ、困難デアルト云フコトデアリマシタガ、今回ハソレヲ避ケテ、信用組合、漁業組合ノ組合員ニ限ルト云フコトニシテ、而モ明瞭ナモノヲ指定スルノデアリマスカラ、從來考ヘラレタヤウナ困難ハ、突破出來ルト云フ確信ヲ以チマシテ、法律ヲ制定シタ譯デアリマス

○谷原委員 信用組合ト組合員トノ間デアルカラ、殆ド質ニ置イテ占有シテ居ルヤウ思ヒマスルガ、一應ソレハ御尤ナコトデアリマス、併ナガラ例ヘバ盜難ノ如キモ無キニシモアラズデアリマスルガ、左様ナ場合ニ僅ニ七ツヤ十ノ特徴ヲ以チマシテ、サウシテ其抵當權ヲ追及シテ、實行スルト云フコトハ至難ナコトデアラウト思ヒマス、或申シマスルカ、二十噸未満ノ船ニ、特ニ特徴ヲ拵ヘレバ兎モ角、ソレデナイン限リハ、追及權ヲ及ボスダケノ特徴ハ、容易ニ發見サレナイト思ヒマスガ、或ハ將來ニ於キマシテ、船ニ付テハ特ニ番號トカ、或ハ其他特徴ヲ作ラシメテ、サウシテ初テ登録ヲスルト云フヤウナ仕組ニデモ爲サレルノデアリマセウカ、其點ヲ一寸伺ッテ置キタイ

○小平政府委員 漁船ノ方ハ船ノ鑑札制度ノ實績モ十分考ヘテ見マシタガ、船名、ソレカラ船型、用途、造船所、製造年月、使用者等ニシテ、而モ明瞭ナモノヲ指定スルノデアリマスカラ、保護シテ居リマシテ、期間、種類、製作所、製作番號等ヲ登録スルノデアリマスカラ、相當是デ運用ガ付クカト思フノデアリマス、其他善意ノ取得者等ニ對シテハ、十分此法律ノ終ノ方ニ規定シテアリマスガ、居リマシテ、サウ云フ矛盾ハナイヤウニ致シテ居ルノデアリマス

○谷原委員 工場ニ限リマセズ、此財團トシテ登録致シマスル場合、或ハ立木ノ如ク居リマス、尙ホ盜難ノ場合ニハ、善意ノ取得者ハ、是ハ完全ニ權利ヲ取得スルノデアリマス、是ハ工場抵當法其他從來ノ動産抵當ノ制度ニ限リ、特殊ノモノニ動産抵當ヲ容易ニ轉々性ノ少ナイモノニ付キマシテハ、只今御示シノ如ク容易ニ散リモ致シマセヌシ、又散リマシテモ追及權ガ及ボシ易イノデアリマスガ、偶、獨立シターツノ、而モ頗ル動性ニ富ンダモノニ、之ヲ抵當權ノ目的トシテ、而モ占有ヲ移サズニ、ソコニ擔保ノハ現在ノ法律制度ニ於キマシテモ、立木テハ、非常ニ是ハ難シイ問題ニナルグラウト思ヒマス、事實ニ於キマシテ、是アルガ後ニモ抵當權ガ木ニクッ付イテ來ル、其結果ニ僅ニ七ツヤ十ノ特徴ヲ以チマシテ、サウシテ其抵當權ヲ追及シテ、實行スルト云フコトハ至難ナコトデアラウト思ヒマス、或申シマスルカ、二十噸未満ノ船ニ、特ニ特徴ヲ拵ヘレバ兎モ角、ソレデナイン限リハ、追及權ヲ及ボスダケノ特徴ハ、容易ニ發見サレナイト思ヒマスガ、或ハ將來ニ於キマシテ、船ニ付テハ特ニ番號トカ、或ハ其他特徴ヲ作ラシメテ、サウシテ初テ登録ヲスルト云フヤウナ仕組ニデモ爲サレルノデアリマセウカ、其點ヲ一寸伺ッテ置キタイ

○小平政府委員 次ニ制裁ノ問題デアリマスガ、第十八條、或ハ十九條ニ制裁ヲ設ケテアリマスルガ、可ナリ是ハ重イ制裁デアリマスルケレドモ、只今政府ノ言ハレマシタヤウナ心配ガアリマスル爲ニ、斯様ナ重イ制裁モ自然付イテ來ルコトダラウト思ヒマスルガ、茲ニ「抵當權者ニ損害ヲ加フル目的ヲ以テ」ト云フ文字ヲ使ハレテ居リマスガ、是ハ認識主義ナノデスカ、意欲主義ナノデスカ、ドチラデスカ、即チ例ヘバ「此目的」ト云フコトハ、法文ノ字句カラ言ヒマスト云フト、損害ヲ加フルコトヲ知リテト云フ民法

第四百二十四條ノヤウナ、ア、云フ用語ト  
ハ違ツテ居リマスガ、「目的ヲ以テ」ト云フコ  
トハ、一ツノ意慾、希望ニ基ク場合ニ多ク  
使ハレルノデアリマスルガ、「知リテ」ト云  
フ認識主義トハ、用語上違フノデアリマス、  
例ヘバ抵當ニ入レテ置キマシテ、其抵當物  
ヲ自分方抵當ニ入ッテ居ルト云フコトヲ知  
リツ、モ、何カ自分ノ一ツノ感情ノ激發カ  
ラ、其目的物ヲ壞シテシマッタヤウナ場合ニ  
於キマシテハ「目的ヲ以テ」ト云フコトヲ  
意慾主義ニ解シマスルナラバ、刑罰ハ受ケ  
ナイ、犯罪ニナラナイケレドモ、認識主義  
デ行キマシタナラバ、抵當權者ニ對シテ損  
害ガアルト云フコトヲ知ッテ、而シテ尙ホ其  
物ヲ壞スノデアリマスカラ、本條ノ刑罰制  
裁ヲ受ケルヤウナコトニナリマスガ、此「目  
的ヲ以テ」ト云フノハ、普通ノ用語例ノ如  
ク意慾主義ヲ採ツタノデアリマスカラ、或ハ又  
「知リテ」ト云フ認識主義ヲ採ツテ來テ居ル  
ノデアリマスカ、其點ヲ明ニシテ戴キタイ  
○小平政府委員 此罰則ノ規定ハ、是ハ普  
通ナラ當然刑法ニ行クノデアリマスガ、事農  
業者、漁業者ニ關スル規定デアリマスカラ、  
刑法ノ規定ヨリズット輕クシタ意味デ規定  
シテ居ル、而モ是ハ親告罪ニシタ、何モ規  
定ガナケレバ刑法ノ適用ニナリマシテ、當

然犯罪ニナリマシテ、隨分重イ犯罪ニナリ  
マス、併シ農業者、漁業者デアリマス故ニ、  
特ニ刑法ノ例外ヲ認メテ、ズット輕イ刑ニシ  
タノデアリマス、而モ親告罪ニ致シテ、無  
事、告訴ヲ待ツテ論ズルコトニ致シタノデ  
アリマス、尙ホ細カナ事ニ付キマシテハ司  
法省ノ刑事局ノ御方カラ、正確ナ御答ヲシ  
タ方ガ宜イト思ヒマスカラ、左様御承知ヲ  
願ヒマス、今御呼ビシマス  
○青山委員 此間ニ一寸御尋致シタイノデ  
アリマス、此農業動産信用法ノ出來タコト  
ハ非常ニ結構デス、先程鈴木サンカラモ御  
尋ガアリマシタガ、大體ドレ程ノ資金ガ運  
用ナサル見當デアリマスカ、御分リナラバ  
大略デ宜イノデアリマスガ、伺ヒタイト思  
ヒマス  
○小平政府委員 資金ガドノ位出ルカト云  
フコトハ、ドウモハッキリ申上ゲラレマセヌ  
ガ、此農業用ノ家畜ノ凡ソノ價格ヲ見積ツ  
テ、參考資料トシテ差上げテアルカト思フ  
ノデアリマスガ、是ハドウモドノ位ノ資金  
ガ是デ出ルカト云フコトハ、ハツキリ私共  
申上ゲルコトハ困難デアリマスガ、併シ現  
在例ヘバ漁船ノ方ニ於キマシテモ掛ケ買デ  
買フ、隨テ漁獲物ハ製造業者ニ喰ハレテシ

マフト云フヤウナコトニナリマス、數字ハ  
ハツキリ申上ゲ兼ネマス  
○青山委員 左様デアレバ致シ方アリマセ  
タガ、要スルニ先程村上君、其他カラ要望  
ス、ソレカラ序ニ政府委員ニ御尋致シマス  
ガ、全國ノ地方廳ニ水產課ノアル所ハ甚ダ  
少イカノヤウニ思ツテ居リマスガ、現在農林  
省ノ本省ノ系統カラ眺メテ見マスルト、地  
方廳ニ行クト非常ニ變態ニナツテ行クヤウ  
ナ傾向ガアル、水產課ノナイ所ニハ何處ノ  
縣ニ於テモ、商工水產課ト云フモノニ依テ  
總テガヤラレテ居ル傾向デアリマシテ、殆  
ド農林課ト離レテ居ルノデゴザイマス、中  
央ノ關係ト全然反對ナ立場ニナツテ居ル、ソ  
レガ爲ニ農林省ガ現在ヤリツ、アル所ノ漁  
港問題ノ如キハ、地方ニ參リマスト殆ド其  
仕事ガ水產課ノ關係デナク、土木課ノ關係  
ニナツテ居ルノミナラズ地方ノ耕地整理組合  
デアルトカ、或ハ干拓ノ事業デアルトカ云  
フモノニ相成リマスト、商工水產課ノ方ハ  
其方ノ專門ノ指導者ノナイ爲ニ、色々缺陷  
ガ現ハレテ居ルノデアリマスガ、其點ハ幾  
分是正サレルコト、思ヒマス、地方廳ニ於  
ケル水產關係ノ課ノ取扱等ニ付キマシテハ  
其縣ノ事情ニ依テ一律ニ中央カラ地方ノ事

面カラ眺メテ見マスト、遺憾ナ點ガ暴露セ  
ラレテ居ルヤウニ考ヘテ居リマス、是等ニ  
參リマスト、ズット系統ガハツキリトシテ居  
ル仕組カラ考ヘマスト、水產課ノヤルコト  
ガ非常ニ結構ダト思ヒマスガ、是ニ對シ  
テハ如何様ニ考ヘテ居ラレマスカ、此際承  
テ置キタイト思ヒマス  
○戸田政府委員 漁業組合ノ法律ヲ改正ス  
ルニ付テハ、漁業組合ノ指導職員ヲ設置ス  
ル豫定ニナツテ居ルノデアリマシテ、經費等  
ノ點カラ課ヲ造ルト云フヤウナコトハ、到  
底出來マセヌケレドモ、從來何等之ニ對ス  
ル職員ガナイ爲ニ、色々不便ノ點ガ多ク、  
指導上ニモ缺陷ガアリマシタノデ、此度主  
事及主事補ヲ——縣ニ依テ達ヒマスケレド  
モ、主事及主事補ヲ、少クトモ其下チラカ一  
人宛ヲ置クコトガ出來ルヤウニシマシテ、  
漁業組合ノ指導督勵ニ付テ遺憾ナキヲ期シ  
タイト思ツテ居ル次第デアリマス、要スルニ  
其方ノ專門ノ指導者ノナイ爲ニ、色々缺陷  
ガ現ハレテ居ルノデアリマスガ、其點ハ幾  
分是正サレルコト、思ヒマス、地方廳ニ於

<p>リマセヌガ、從來ハ大體ニ於キマシテ、水産業ノ方ガ、組合ノ仕事デアリマストカ、沿岸ノ小漁業者ノ世話デアルトカ云フヤウナ方面ハ、寧ロ廣ク水産業ト云フ方面カラ、資本的ノ水産業ノ方面ニ努力ガ拂ハレテ居タト云フヤウナ所カラ、商工水産課ガ置カラテ居ッタノデハナイカ、製品ノ海外ノ輸出デアルトカ、サウ云フヤウナ方面ノ關係カラ、商工水産課ガ置カレテ居ルノデアラウト思ヒマスガ、同時ニ今日ノ狀況トシテハ沿岸ノ漁業ニ關スル世話ヲスルコトガ、非常ニ必要トナツテ來テ居リマスノデ、漁業組合ノ方ニ、指導員モ置カレルノデアリマスカラ、從來ヨリハ相當改善サレルモノト考ヘテ居リマス</p>	<p>知ノ如ク認識主義デアリマシテ、犯意ト云フモノハ認識ガアルナラバ直チニ成立スルノ通リデアリマス、隨テ意慾ヲ條件トスルテ本文ノヤウナ條文ヲ用ヒルコトハ御承知申ス迄モナイ、背任罪ノ犯意ト云フモノト、普通ノ犯罪ノ犯意トハ違フト云フコトハ御承知デアラウト思ヒマス、而シテ本法ハ背任罪ノ如キ目的、意慾ヲ要件トシテ居リマスカ、果シテ左様ニ解釋スルノデアリマスカ、其點ヲ餘り具體的ノ問題デ申シマスト後、テ本法ヲ運用スルノニ困リマスカラ、抽象的ニ所謂「知リテ」ト云フ認識ガ犯意デアルカ、或ハ「知リテ」ト云フ認識ダケデハイカヌ、更ニ一ツノ意慾、慾望、目的、之方要件ニナルノカ、詰リ犯意ノ要件ニ付キマシテ、抽象的ノ政府ノ御解釋ノアル所ヲハッキリ伺ヒタイ</p>
<p>○木村政府委員 第十八條ニ「抵當權者ニ損害ヲ加フル、請リ言換ユレバ抵當權者ニ損害ヲ加フル考デ、而モ農業用動產ガ、抵當權ノ目的物トナツテ居ルコトヲ知ッテ居ル、此二ツノ條件ガ必要ダト解釋シテ居リマス</p>	<p>○木村政府委員 第十八條ニ「抵當權者ニ損害ヲ加フル、請リ言換ユレバ抵當權者ニ損害ヲ加フル考デ、而モ農業用動產ガ、抵當權ノ目的物トナツテ居ルコトヲ知ッテ居ル、此二ツノ條件ガ必要ダト解釋シテ居リマス</p>
<p>○谷原委員 刑法ノ一般建前トシテハ御承</p>	<p>○谷原委員 刑法ノ一般建前トシテハ御承</p>
<p>○谷原委員 刑法ノ一般建前トシテハ御承</p>	<p>○谷原委員 刑法ノ一般建前トシテハ御承</p>

豫想件數ハ、施行ノ年デナク平年度ニ於テ、  
ニ焉ダニ二二二萬牛、魚雷ダニ七萬三牛、大

牛馬ガ二十七萬件 漁船ガ九萬一千件  
キナ農業ノ機械ガ約四萬件位カト考ヘテ居  
リマス、隨テ金額ハ是デ御推定ガ出來ルカ

ト思ヒマス、出來ルダケ努メテ必要ナ資金  
ハ貸シタイト思ヒマス

○庄委員長 大體是デ質問ヲ打切ニシタイ  
ト考ヘテ居リマスガ、ドナタモ御異議アリ  
マセヌカ

「異議ナシ」ト呼フ者アリ】

○庄委員長 然ラバ之ヲ以テ質問ヲ打切ト致シマス、午後一時マデ休憩致シマシテ、午後一時ニ之ヲ決定シテ、成ベク本日緊急上程致シマシテ、本院ヲ通過サセタイト考ヘテ居リマス、ドウカ其御含ミデ午後一時ニキ、チント此處へ御捕ヒヲ願ヒマス、ソレデハ休憩致シマス

午後零時十分休憩

○青山委員 本案ハ明治四十二年ノ制定ニ  
カーリアンチ、今日マニミツ界ニ於テモ是ガ

カーリマシテ 今日ハ天業界ニ於テ是改正ヲ要望シテ居ツタコトガ幾多アツナノデアリマス、此度ノ改正案ノ漁業権ノ存續期

「レバシ」以上三ツの條件を本シマシラ本  
案ニ賛成致シタイト思ヒマス、ドウゾ各位  
ノ御賛成ヲ御願申上ダマス

○村上委員 私モ政府提案並ニ青山君ノ希望  
漁業法ノ改正ヲ要望シマスル骨子ハ私共ハ、  
漁業権ニ對スル補償制度ノ確立ト、免許期  
間ノ撤廃ガ最モ必要ナコトデアルト思フノ

デアリマス、是ガ爲ニ折角財産トナッテ居成スル者デアリマス

成スル者デアリマス

常ニ幼稚デゴザイマシタ、其當時ニ制定致  
ノマノモラギリマツ、其當手ノ文

其當時カテ數  
ルノデアリマス、其間時勢ノ變遷ト水産業  
ヘテ見マスレバ、四十年ノ長キニ瓦ツテ居

ノ進歩ニ伴ヒマシテ、幾多ノ缺陷ヲ生ジ、  
改正文ヲ要スベキ點ガ多々アルト思ヒマス、  
ドウカ將來ニ於キマシテハ、全般ニ瓦リマ  
シテ、是ガ改正セラレントヲ私ハ特ニ茲  
ニ要望致シマシテ、此提案ト希望條件ニ贊  
成スル者デアリマス。

關係ト云フコトニハ、十分ノ御考慮ヲ願ハ

ナケレバ、法律ガ出来テモ其效果ヲ收ムルコトガ出来ナイト云フ遺憾ノ場合ガ生ジテ

モ困ルコトデアリマスカラ、此點ニハ最善

○庄委員長 ソレデハ漁業法中改正法律案  
ハ、全會一致可決確定致シマシタ

付カナイト思ヒマス、之ニ對シテモ特ニ政  
府ハ御考慮ヲ願ヒタイト同時ニ、現在貴族  
院ニ於テ審議セラレツ、アル農業漁業災害  
保険法ガ確定ニ至リマセヌケレバ、農業方  
面ハ別ト致シマシテ、漁業方面ハ、漁船ノ擔

或ハ府縣ノ漁業組合聯合會、若クハ中央聯合會、斯ウ云フ系統的ノモノガ此法律ノ實施ニ伴ツテ成立致シマスレバ、廳テ漁業組合中央金庫ト云フヤウナモノガ、必要ニナツ

テ來ルノデハナカラウカ、斯様ナ考ヲ私共  
ハ有ツエ居ルノデアリマス、是等ノ點ニハ遺  
憾ナキ最善ノ施設ヲ切望シテ、本案ニ贊意

○庄委員長 別ニ御賛成ダケデ御異議ガナ  
イヤウデゴザイマスカラ、之ヲ以テ採決ス  
ルコトニ致シテ御異議アリマセヌカ

○庄委員長 然ラバ之ヲ採決致シマス、只  
今ノ御希望ハ別ニ書面ヲ以テ提出致シマセカ  
ズニ、委員長ヨリ議場ニ報告スルコトニ取  
計ツテ宜シウゴザイマスカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

「異議ナシ」ト呼フ者アリ】

第六類第三十二號 農業動產信用法案外一件委員會議錄 第二回 昭和八年三月十六日

昭和八年三月十六日印刷

昭和八年三月十七日發行

衆議院事務局

印刷者 民友社印刷所